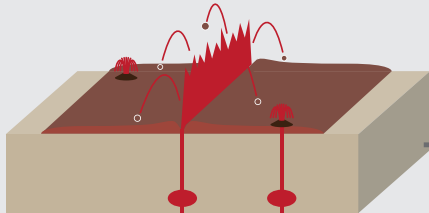


「夢化けの島」の物語のカギ “見島土”の成り立ち

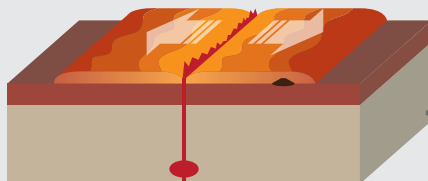
伊与原さんの作品は専門性の高い科学の視点が入り込められているのが特徴です。「夢化けの島」でも、物語のカギになる“見島土”について、その成り立ちが地球科学的視点で描かれています。

【物語の舞台「見島」の大地の成り立ち】

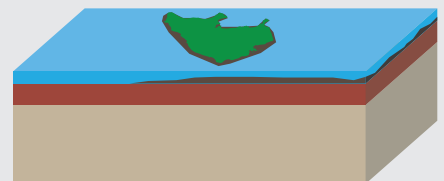
① マグマがふん水のように
ふき出したふん火



② ドロドロの溶岩が
地面をおおいつくしたふん火



③ ふん火が終わったあと
海が大地をけずって島に



海岸の崖を見ると見島の成り立ちがわかります。

② ドロドロ溶岩が
マグマのしぶきの
地層をおおって
固まった岩石

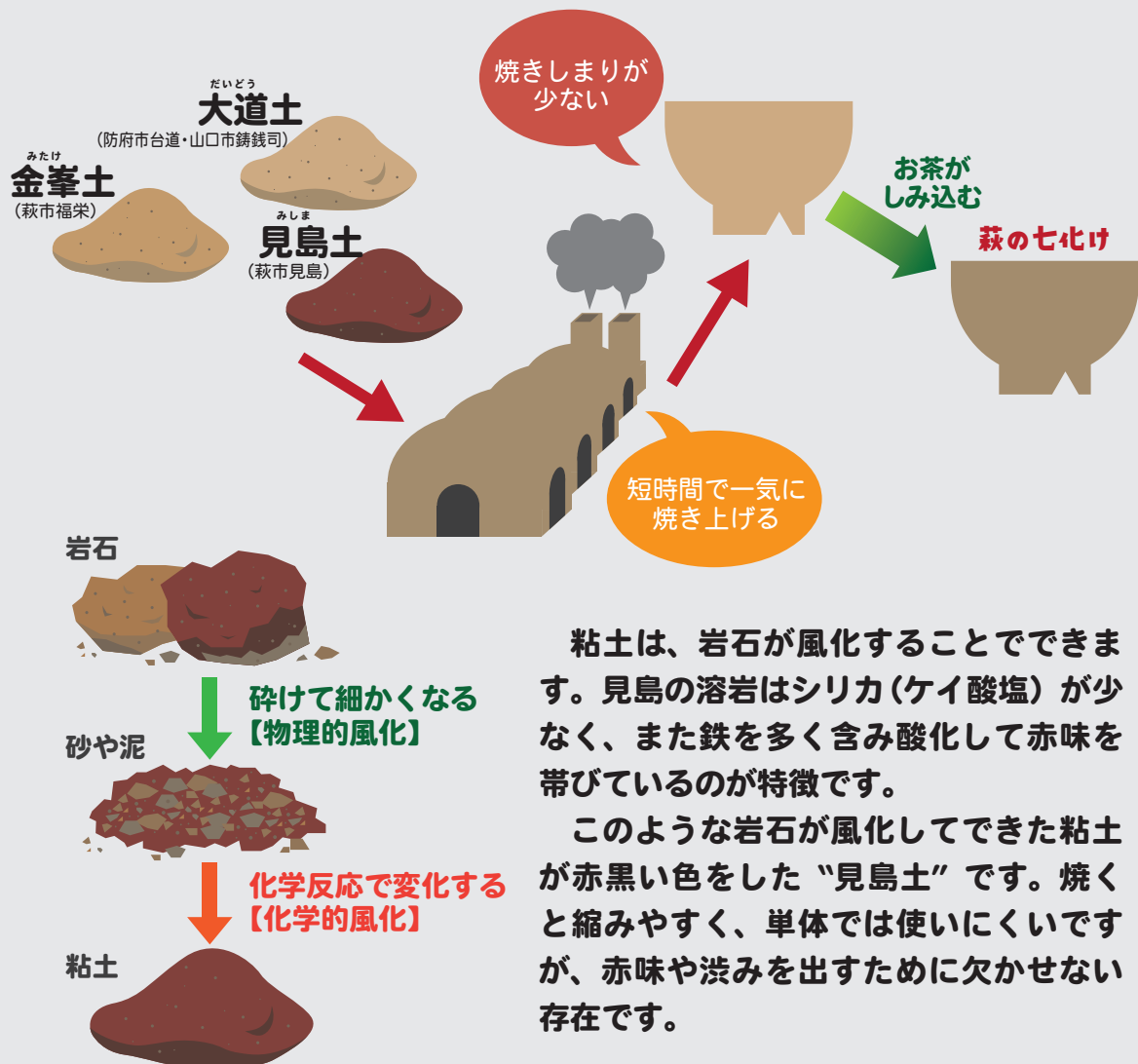
① マグマのしぶきが
空中でかたまって
ふりつもった地層

③ 波が地層を
けずってできた
どうくつ



萩焼は主に大道土、金峯土、見島土をブレンドしてつくられます。他の焼き物に比べて短時間（例えば備前焼は1週間程かけるのに対し、萩焼は24時間前後）で一気に焼き上げます。こうして焼き締まりの少ない、独特のやわらかな風合いが生み出されています。

釉薬（表面のガラス層）のヒビ（貫入）から水分が浸透することで、使い込むうちに色合いが変化していく「萩の七化け」は魅力の一つです。



粘土は、岩石が風化することでできます。見島の溶岩はシリカ（ケイ酸塩）が少なく、また鉄を多く含み酸化して赤味を帯びているのが特徴です。

このような岩石が風化してできた粘土が赤黒い色をした“見島土”です。焼くと縮みやすく、単体では使いにくいですが、赤味や渋みを出すために欠かせない存在です。